2018~2019 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

# 七福人

会　長　鈴木　信男
副会長　古内　一二
幹　事　三浦　和士

RI 会長テーマ

＝会長指針＝

未来につなげよう

## ・・・　例　会　記　録　・・・

**１１月第３週例会　２０１９年１１月２１日（木）**

**ソ　ン　グ　：　それでこそロータリー　　ボックス　：２７，０００円　（報告者　松田福美会員）**

**本日出席率　：　６０．７８％　前回修正後１００％（ﾒｰｸｱｯﾌﾟ２５名）　（報告者　木下彰則会員）**

★　会長の時間　：　鈴木信男会長

皆さんこんにちは！

11 月 10 日日曜日に.クラブ、職業、社会奉仕委員会合同セミナーでの委員長から伝達事項で二つほど紹介します。

1．マイロータリー.の加入業況でした。10 月 1 日現在全体で 23.87%大船渡西ロータリークラブでは 24.53%です。全会員が加入するようお願いします。

2．国際大会案内の紹介　　ホノルル・ハワイ大会 2020 年 6 月 6 日から 10 日まで会員家族の方ぜひ参加しましょうと、参加申し込みはマイロータリーからお願いします。

11 月 17 日 18 日と益子ロータリークラブの 40 周年記念大会に出席してきました。
(濱守夫妻。門田・船砥・千田会員と私で)

・東日本団震災当時の話
ロータリー野球が縁で 6 月 13 日に会員 25 名が 15 トントラックで支援物資を・・
そのほかたくさんのいろいろなはなしを聞いてきました。　(前野さん金野さん前原さんのこと)

・「架け橋の翼の対応について、」各班からミーティングの報告発表があります。
全会員が真剣に取り組んで話し合いがあったと思います。
入会間もない会員は韓国との青少年交流事業や友好クラブの交流についての経緯等についてわからないと思います。今後この事業継続等に向けて話し合ったと思います。　発表を楽しみにしています。

## ◆◆◆　　幹事報告　　◆◆◆

1　ガバナー事務所より
・首里城火災に対する支援金のお願いが届いています。　　締切り　12/16
・ロータリーリーダーシップ研究会パートⅢ開催の案内が届いています。
日　時　１２月１５日(日)８時５０分～１６時３０分　　場　所　仙台迎賓館　斎苑
定　員　３６名　　参加費　2,500 円　　締め切　12/6

2　団体調整幹事　渕上清様より
サンアンドレス公園等モニュメント復旧に係る関係団体連絡会議開催の案内が届いています。
日時　１１月２９日(金)１５時～１５時５０分　公園現地見学　１６時～１７時頃　　会議
１５時　大船渡防災観光センターピロティ集合　　参加人数報告願います。

３　劇団わらび座より

ミュージカル大船渡公演チケット購入と販売のお願いが届いています。

公演日時　　２０２０年２月２４日(月・祝) １４時～　　場所　　大船渡市民会館

前売料金　　大人　4,500 円　高校生以下　2,000 円

## ◆◆◆　　委員会報告　　◆◆◆

### ★　山口ひとみ IA 小委員長

青少年奉仕委員会からです。

歳末助け合い募金・及び大洋学園生とのクリスマス会の出欠の確認を回覧しておりますのでよろしくお願い致します。クリスマス会の方は　今年は三鉄の予約が取れませんでしたのでサンリア内にあります夢茶房（ゆめさぼう）にて行うこととなりました。夢茶房は大洋会でやっている軽食のお店です。

参加のご協力　どうぞよろしくお願い致します。

11/26（火）　ＩＡＣ定例会があります。時間は　15：50　東高校多目的教室になります。

参加出来る方は　ぜひよろしくお願いします。

## ◆◆◆　　本日のプログラム　　◆◆◆

### ミーティング報告：「架け橋の翼」事業について

### ★　第１班（発表）三田地大悟

日　時：１１月１９日（火）１８：３０～　会　場：あらき

出席者：（班長）大西竜介、木下彰則、高木久子、水野賢一、田邊茂昭、志田宏美、阿部英氣、山口康文　　計９名

資　料：韓国・南原中央 RC との交流の軌跡（40 周年記念誌より）

青少年交換研修事業に関する合意書

友好クラブ間交流諸経費支給規定

●大西さんより第７回「架け橋の翼」についての報告（今回の架け橋の翼について）

・急なキャンセルには驚いた。これにより、迎えの車も１台減らすことが出来たのではないか。

・中学生６名の参加となったが、はたして中学生でいいのだろうか？

・・学ぶ姿勢が感じられなかった。

・・スマホばかりいじっていた印象。

・・言葉のキャッチボールが出来ない。

・・コミュニケーションの取り方が難しかった。

・楽しい事ばかりのプログラムだけではなく、被災地へ来たのだから被災地でしか体験出来ないようなプログラムも組んでいいと思う。

・年度変わりすぐの「架け橋の翼」の準備は期間的に厳しい面がある。

・ホストファミリーが決まらず苦労した。

・今回参加した人達は感動したのだろうか？そのように感じないのはプログラム自体に問題がある？

・高校生の受け入れをしたときは、何かしら日本に関して勉強してきた雰囲気は感じられたが、
今回の中学生からは何ひとつ感じられなかった。

（架け橋の翼自体について）

・震災後入会した会員が 2/3 となった今、なぜ始まったのかを分からないまま進んでいる。
それを説明した上で、今後の方向性を考える時期かもしれない。
・社会情勢がこのような状況の中、今回キャンセルもあり、韓国の親、東高校の親が受け入れ、派遣に関してどのように感じているのだろうか。
・会員の協力がなかなか得られない状況もある。
・派遣した時に、仮に戦争など起こったらロータリーとして責任が取れない。
・次回の事を考えると、ホストファミリー、通訳、会場準備やら、今回以上に苦労しそう。
・会員の多くが、海を愛する会の会員でもあり、夏祭りの準備と重なると苦労する面が多々ある。
・1 週間という日程自体がどうなのだろう。
・費用の負担も大きい。見直しが必要ではないか。
・友好クラブ間諸経費についても見直しが必要な時期ではないか。
・留学生には日本の事、体験した事を自国に帰って伝えてもらわなければならないが、今のプログラムではたしていいのだろうか？
・1 週間の短期留学でも、半年かけて英語の勉強、スピーチ、着付け etc 準備をしてから留学する。
だからこそ人生が変わるくらいの体験となる。同じ期間でも違いはあるのではないか。
・細かいスケジュールを組まなくても、1 日予定なしで自由行動させてもいいのではないか。
自分たちで大船渡に来る前に学ぶ機会にもなるかも。（場所、移動手段、観光場所 etc）
・津波伝承館や気仙大工へ訪問し何か作ってもらうのも記念になるのではないか。
・日韓問題は根が深いので、この先分かり合える世代が来るのか自問自答しているが、架け橋の翼もやめるべきではないかという意見と、民間団体交流として継続していくべきとの意見があり非常に難しい。
・社会情勢を考慮して、一度「架け橋の翼」を休んでもいいのではないか。

★ 第２班　（発表）石川恵美子

日　時：１１月１５日（金）１８：３０～　会　場：龍華
出席者：（班長）佐藤　良　濱守豊秋、藤丸数子、藤原太伸、菊地弘郎、門田　崇、
佐々木幹子、金比呂正、橋爪文人　　計 10 名
資料の“青少年交換研修事業に関する合意書”、友好クラブ間交流諸経費支給規定、”韓国・南原（なもん）中央 RC との交流の奇跡“を見ながら今までの経過等を確認し、話し合いました。

● まずは確認したことを抜粋してお話しします。
南原（なもん）は西 RC クラブの元会員である洪甲童（こうこうどう）さんの出身地であることをきっかけに、釜山の RC 会員であるゴンさんが橋渡しをしたことで南原中央 RC との交流が始まったそうです。
架け橋の翼につきましては、
2003 年 10 月に大船渡にて友好クラブ調印式典を行いました。
2005 年 6 月に「架け橋の翼」に関する合意書を取り交わしました。
2005 年 7 月に「第１回架け橋の翼」として引率者２名を含む８名を受け入れました。
2005 年 8 月に「第１回架け橋の翼」にて引率者として当時の船砥会長、濱守国際奉仕委員長の 2 名を含む 8 名を派遣しました。
　その後は 3 年を 1 サイクルとして架け橋の翼の受け入れと派遣を行ってきたとのことです。
震災により 2011 年以降は中断しておりましたが、2017 年に再開し、今に至ります。

● 次に皆さんから出た意見をご紹介します

・架け橋の翼は続けた方がいいと思う。

・交流はいいと思うが、続けるためにはどうすればいいか検討が必要。
例えば今は６泊の日程を組んでいるが、滞在日数を短くするとか、時期を変更するなど。

派遣については
お子さんを派遣したいと言っている親御さんもいる。

・国同士の関係のこともあって、学校側や生徒の親が躊躇している。
来年度は派遣だが、行く人がいるのか心配。

・時期としてはオリンピックの開催中となるので、人の流れが多い中での移動となる。

・生徒の募集は大船渡東高校・大船渡高校・高田高校の３校にするが、早めに声をかけたほうがいいのではないか。

・引率者として仕事を休んで韓国に１週間行くのが難しい人が多いのではないか。

受け入れについては

・夏祭り等の行事への準備・参加が重なり、引率者の都合をつけるのが大変。

・ホームステイ先として今は率先して受け入れてくれる方が少ない。

・通訳をお願いする方の年齢・体調等考えると１週間の日程はハードスケジュールである。今後続けていくためにはどうすればいいのか検討が必要。

・国際奉仕委員長の負担が大きいと思う。協力体制を作っていくのが課題。

今年来た翼の子たちについては

・今回は全員中学生だったが、高校生よりはコミュニケーションが取り辛かったのかなと思う。

・スマホをいじってばかりいる子が多かった。

・大船渡に来て経験したことを、すぐではなくても行って良かったなと思える時が来ればいいのではないかと思う。

その他には、原点に戻ってロータリーの会員同士の交流も、もっと活発にしていくことがいいのではという意見もありました。架け橋の翼を続けていくために、どのようにしていったらいいのかを検討する必要があるのかなと思いました。

**★ 第３班　（発表）熊谷雅也**

日　時：１１月１５日（金）１８：３０～　会　場：あらき

出席者：（班長）山口ひとみ、鈴木信男、池田義弘、浜田浩誠、紀室綾子、
鈴木秀樹、船砥俊昭、志田成樹、山口　徹、上野　哲　　計 11 名

テーマは「架け橋の翼の対応について」ということでしたので、先日の例会で配布された、大西国際奉仕委員長が作った『架け橋の翼報告書』を持参してきてもらいました。

鈴木信男会長がメンバーの一員でしたので、まず最初に鈴木会長からテーマ設定の主旨を話してもらいました。

その中で、今回の事業の実施において

１，会員への再三のお願いにもかかわらず、ホームステイを受け入れる会員が最後まで決まらなかった。

２，期間中の同行者も少なかった。

３，来日した子どもたちが、

① 同世代との交流機会が少なかったり、

② スマホをいじっていることが多く会員との交流も少なかったり、

③ 食事も残すことが多かったりと、全体を通じて交流の意欲やモラルが低いことが感じられた。

４，その様な中で来年は韓国へ派遣する年になっているので、今回の受け入れをしっかりと総括する事が大切

という、テーマの主旨説明があった。

その後、船砥会員から韓国南原（なもん）中央ロータリーとの姉妹ロータリー締結にいたる経緯を簡単に説明してもらった。（船砥会員は濱守会員と共にこの南原中央ロータリーとの交流事業を推進してきました。）

1. 当時、海外のロータリーとの姉妹ロータリー締結の気運が強かったこと。
2. そんな中で、2520 地区の菊地弘尚パストガバナーの仲介で、釜山のロータリアンで日本通の権（ごん）さんと濱守さんが知り合い、いろいろとアドバイスをもらったこと。
3. また西ロータリークラブ創生期からの会員でもあった韓国出身の故・洪甲童（こうこうどう）さんの弟さんのいる南原中央ロータリーとの姉妹ロータリー締結の話が進み、締結に至ったこと。
4. 南原市のある地方は、秀吉の朝鮮出兵の際の主戦場で、多くの朝鮮人が死んだところで、今でも日本への怨念の強い場所のため、当初は南原ロータリー内に反対の声もあったが、権さんの仲介や、洪甲童さんとの縁ということもあり、姉妹ロータリー締結に至ったこと。
5. その様な経緯もあり、南原訪問団はいつも朝鮮出兵で死んだ人を祀る「万人塚」をお参りし御霊に祈りを捧げていること。そして訪問の度に南原ロータリーから大歓迎を受けていること。

などを話してもらった。

船砥さんから話を聞く中で、

1. 震災によりロータリー事務所の中に保存してあった交流資料すべてが流されたため、後輩会員に語り継ぎ、理解してもらうためにも、姉妹ロータリー締結にいたるまでの経緯や、その後の今日に至るまでの交流事業の経緯がわかる書類の整備が必要なこと。
2. 特に、南原中央ロータリーとの間で取り交わされた交流事業実施の「約束事」を今一度よく確認し、明確にしておくこと。　　が大切だとみんなで認識できた。

以上、二人の話の後に自由に意見を出し合いましたので、羅列します。

1. 基本的にはいい事業だと思うが、一部の会員だけに負担がかかり「負担感」が強いものになっている。
2. 先輩会員の中には「自分たちも頑張ってやって来たので、後輩会員にも同じように頑張って取り組んでほしい」という考えがあるが、長く続けるには、時代に合わせ、みんなの意見を聞きながら、少しずつ受け入れの仕方を変える必要がある。
3. 事業の期間が 1 週間は長すぎると思う。
4. 交流に感動を感じる機会が少なかった。受け入れプログラムの作り方をもう少し工夫し、市内の同世代との交流や会員との交流の感動体験がもっとできるよう工夫する必要がある。
5. 韓国語の通訳が、（歓迎会の時には、赤崎のユンさんにも通訳を手伝ってもらったが）
   新沼啓子さんだけで、思うようにコミュニケーションをとることができない。通訳の人数の確保の問題、また新沼啓子さんに大きな負担をかけ続けていることも大きな課題。
6. 事業を実施する際、担当に任せっぱなしで先輩会員の協力が少ないため、「押っつけられ感」がある。若い会員が担当したときには、先輩会員も応分の協力をしてもらわないと長続きできない。（ここでいう「先輩会員」とは、主に会長経験者）
7. 事業を実施するに際しては、この事業を始めたときの意義や動機などを新しい会員にしっかりと引き継いでおく必要があるが、その部分が足りないのではないか。そのためにも、事業開始からこれまでの資料をしっかりと整理し直す必要がある。

以上のような率直な意見が出て、とても有意義なミーティングになりました。

以下は、個人の感想も入ったまとめです。

今回の事業の実施の過程で、「架け橋の翼事業」に当初から参加して、その動機や意義をよく理解している先輩会員（おもに会長経験者）と、それをよくわからないままに事業を「押っつけられている」と感じる後輩会

員との意識のずれが根底にあるように感じました。
自分はロータリー歴 20 年以上になる先輩会員の立場ですが、後輩会員は能力が高く実行力もあるため、ややもすると後輩会員に任せておけば大丈夫という気持ちが強かったように思いました。そういう思いはほかのパスト会長にも強く、ヘビーで大切な事業を「まかせっぱなし」にしてしまう傾向があったのではないかと反省しました。
　後輩会員に事業の責任者としての役を与えるときは、先輩会員もしっかりとサポートし協力してあげることが大切かと感じました。
今回の「架け橋の翼」の受け入れ事業は 3 年に一度ですので、3 年に一度「特別委員会」のようなものをつくり、その中に事業の経緯をよく知る先輩会員と、主体的に活動する後輩会員が合同チームを作り実施してゆけば、様々な課題をクリアできるのではないかという、具体的な意見もミーティングの中で出ましたので、ぜひ考えてみてはいかがでしょうか。

　最後になりますが、大船渡西ロータリーの 50 名近くの会員のうち会長経験者が 18 名になります。会員数 50 名とはいえ、活動に参加していない会員も数名いますので、およそ 40%位が会長経験者ということになります。パスト会長になると、会長を経験していない会員からの様々な協力依頼を「スルー」しがちになる傾向があるように思いますが、会長を退けば、再び「平会員」に戻った気持ちで活動するのがロータリーの基本かなと思います。そうすれば新しい会員からも「リスペクト」され、クラブの運営もスムーズになるのではないかと思いました。